

平成 26 年度

# 「ソーシャル ICT グローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム(GCL)」 コース生編入募集要項

## 1. 本プログラムの概要

情報通信技術(ICT)が世界中の人と事物を複雑に結び、急速に変動する未経験の社会経済システムが出現する中で、次々と発生する新たな問題や可能性を捉え、人々に価値あるソリューションを創造し実現する変革が強く求められている。

本プログラムでは、修士から博士後期課程までの一貫した教育課程により、ビッグデータ、複雑システム、ヒューマンシステムの先端 ICT を基軸とし、複数専門分野を統合して、社会の喫緊の課題を解決し、あるいは新たな価値をもたらす知識社会経済システムを創造的にデザインし、社会的イノベーションを先導するトップリーダーとチームを育成する。



図 . GCL プログラムの概念図

## 2. 概要

本プログラムは、修士課程から博士後期課程までの 5 年一貫教育を基本とするが、3 年次（博士 1 年）からの編入も認めている（3 ページの図参照）。

3 年次からプログラムに参加する者には以下のことが求められる。社会イノベーションプロジェクトの具体的企画を有し、これに早期に取り掛かること。また、本 GCL プログラムのグローバルデザインワークショップに主催者として携わり、後輩をリードすること。そのために必要な知識と経験とビジョンを有していることが前提となる。

### 3. 申請資格

本プログラムの参加できる学生は、以下をすべて満たす者とする。

- ・ 以下に挙げる本学大学院博士後期課程に 2013 年 10 月に入学した者、または 2014 年 4 月に入学予定の者。  
情報理工学系研究科（コンピュータ科学専攻、数理情報学専攻、システム情報学専攻、電子情報学専攻、知能機械情報学専攻、創造情報学専攻）  
学際情報学府（学際情報学専攻）  
工学系研究科（都市工学専攻、電気系工学専攻）  
医学系研究科（社会医学専攻、健康科学・看護学専攻）  
農学生命科学研究科（農学国際専攻）  
教育学研究科（総合教育科学専攻）  
経済学研究科（経営専攻）  
法学政治学研究科（綜合法政専攻）

なお、上記のうち 2014 年 4 月入学予定者は、本申請とは別に、上記いずれかの専攻の博士後期課程の大学院入学試験を受験し、合格し、入学・進学する必要がある。大学院入学試験の詳細は、各研究科にて確認すること。大学院入学試験の可否と本プログラムコース生の採否とは独立である。（本 GCL プログラムコース生に不採用の場合も、通常の博士課程学生として博士号を目指すことができる。）

### 4. 留意事項

- ・ 社会人の積極的な参加を期待する。また、RA や TA などとして本プログラムにすでに参加している学生も歓迎する。
- ・ 原則として、本プログラム修士課程（詳細については、本プログラムのホームページを参照のこと）に相当する内容を学習または経験してきた者。ただし、学習または経験が不足する場合、それを博士課程期間中に補充することができる。
- ・ 先端 ICT に基づいた社会的イノベーションにおけるリーダーとなることを志し、指導教員の下承のもと、本プログラム参加者ととともに社会イノベーションプロジェクト実践を遂行すること。
- ・ 本プログラムの趣旨、履修要件等のルールを十分に理解すること。
- ・ 博士の学位記に本プログラムを修了したことが付記されることを了解すること。

### 5. 各年次の趣旨と募集人数（次ページ図参照）

本要項が定めるのは 3 年次からの編入であるが、コースの説明として 1 年次からの学習内容を記載する。

1 年次（修士 1 年相当）：所属専攻の専門的知識・実践力を修得・強化しつつ、本コース独自の科目により社会イノベーションやソーシャル ICT についての基礎知識や視座を身に

着け、問題意識を涵養する。また、実践英語・コミュニケーション演習やグローバルデザインワークショップにより、グローバルリーダーに向けた基礎力と社会の第一線の人々（海外含む）との討論・協働経験を得る。

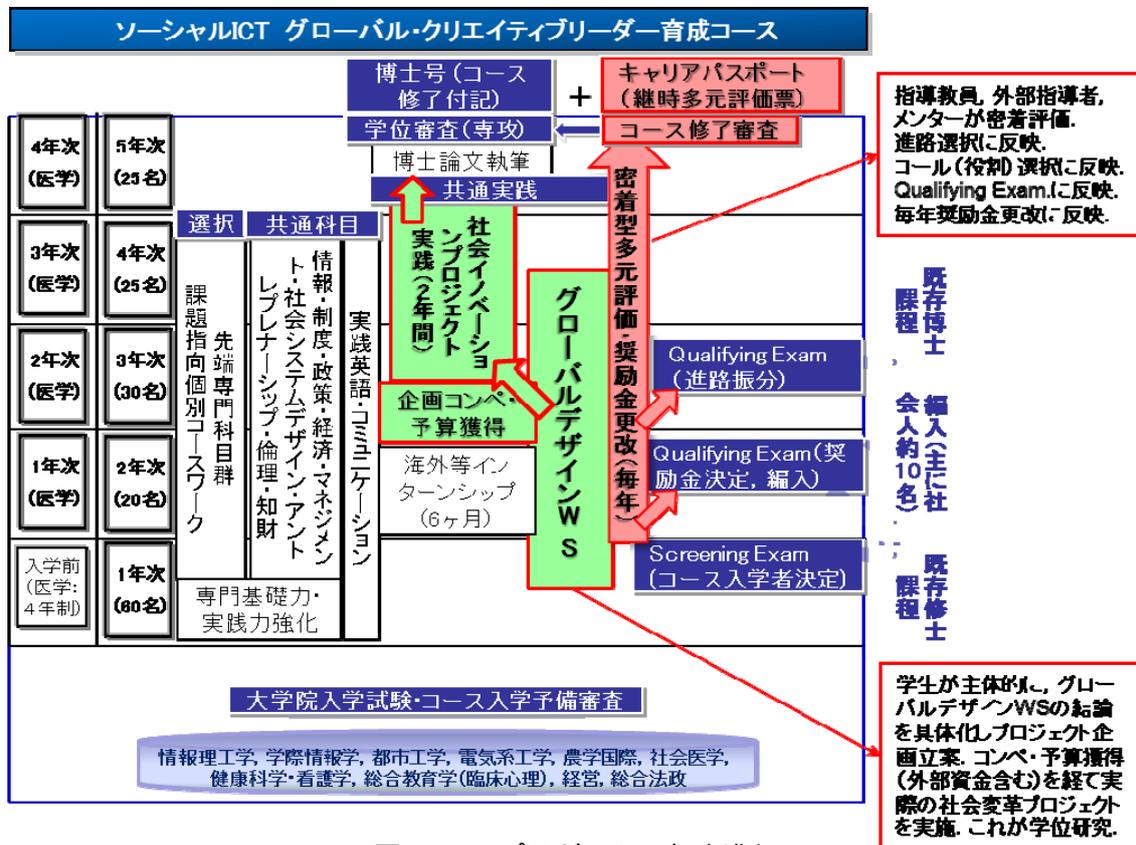


図 . GCL プログラムの年次進行

1 年次募集定員は 60 名（予定）で、希望者から選抜して受け入れる。1 年次後半に、各自の適性と将来設計に応じて、2 年次以後も本コースで博士学位修得を目指すか、既存の通常課程で修士修了あるいは博士進学を目指すか各自判断する。本コース 2 年次進級希望者から 20 名が選抜され進級する。これ以外の通常課程進学者は、上記の基礎的素養を携えて各専門分野を深め、社会で活躍していくことになる。

2 年次（修士 2 年相当）：本コース独自のカリキュラムにより、グローバル・クリエイティブリーダーとしての博士学位取得を目指す。コース独自科目と各専攻科目に加え、6 ヶ月程度の海外・国内インターンシップ（費用支援、場合によっては 3 年次実施）、社会イノベーションプロジェクト企画、ソーシャル ICT に関する研究・実践等を行い、所属専攻の修士学位を取得する。博士後期課程進学を前提として奨励金を全員（辞退者除く）に支給する。定員は 20 名（予定）。

3 年次（博士 1 年相当）：上記科目に加え、各自が企画立案した社会イノベーションプロジェクトに取り組む。定員は 30 名（予定）で、2 年次からの進級者に加え、主に社会人を対象として 10 名程度を選抜試験により編入する。以後 5 年次まで全員（辞退者除く）に奨

励金を支給する。

4年次：3年次に引き続き科目履修とプロジェクト遂行に取り組む。

5年次：上記プロジェクトの成果を学位論文にまとめ、本コース独自基準の学位審査を受け、合格すれば博士学位を取得する。学位記には本コース修了者である旨が記載され、別途コース修了証も交付される。修了者は、先進的なグローバル・クリエイティブリーダーとして、企業、行政、国際機関、ベンチャー起業、等で社会変革を先導していく。

## 6．選抜と採用期間

コース生の選抜は所定の提出書類および面接に基づいて行う。

募集人数：10名程度。

採用期間：平成26年4月1日から平成28年9月30日（平成25年10月入学生）または平成29年3月31日（平成26年4月入学生）まで。

提出書類：

- ・ 申請書および申請書が指定する別紙書類をクリップでとめたもの。
- ・ 推薦書2通（他人によるもので、任意様式、厳封。推薦内容にGCLコース生としての適性を含めること。想定される推薦者：指導予定教員、インターン・勤務先上司など、ただしこれに限らない）。
- ・ TOEFLまたはTOEICスコアなど、英語能力を示すもの。

（提出書類についての疑問点は本要項末尾の問い合わせ先に照会すること。）

提出期間と提出先：平成25年12月24日（火）午前10時～平成26年1月7日（火）午後5時に、GCLプログラム事務局（住所は本要項末尾に記載）に提出する。

ただし、平成25年12月28日（土）～平成26年1月5日（日）までは、事務局が閉室するので注意すること。郵送の場合は平成26年1月3日消印有効。

面接：原則として平成26年1月15日（水）午前10時～午後5時の間。特段の理由がある場合は平成26年1月22日（水）の面接を認めることがある。

受験者ごとに集合場所および90分程度の時間帯を指定する。受験者ごとの場所と集合時刻は、平成26年1月10日（金）までに電子メールで連絡する。（出願したにも関わらず、平成26年1月11日（土）になっても面接の場所・時刻の連絡が来ない場合は、GCLプログラム事務局にメールで問い合わせること。）

(0) 書類を配布する場合は、書類を20部用意し、プレゼンテーションの前に面接者に配布すること。

(1) プレゼンテーション：自分の学業経験・就業経験について3分、プロジェクト計画についての10分のプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションに必要なPC等は自ら準備すること。

(2) 面接：提出書類およびプレゼンテーションの内容に基づき、15分程度の面接を受ける。

採否通知：平成 25 年 10 月入学者に対しては、平成 25 年 2 月末までに本人に通知する。

平成 26 年 4 月入学予定者に対しては、博士課程の入学試験の合格発表の後に本人に通知するので、受験者は自分の入学試験の合否が判明したのち、GCL プログラム事務局に電子メールで問い合わせること。

以上、所定の様式と最新のスケジュールについては、本プログラムのホームページ(URL は本要項末尾に記載)を参照のこと。

## 7. コースの特色と修了要件

(GCL プログラム ホームページ：<http://www.gcl.i.u-tokyo.ac.jp> 参照のこと)

### ・ プログラム担当者陣

本プログラムには産官民学から多彩なプログラム担当者が 89 名参加しており、様々な講義・ワークショップ等を通じて、指導教員以外の指導を仰ぐことができる。これらの詳細については、本プログラムのホームページを参照のこと。

### ・ 密着多元評価

コース生は指導教員、外部指導者、メンター等による密着多元評価と、資格試験(Qualifying Examination)による評価を受ける。

### ・ 奨励金の支給

コース生には 2 年次より奨励金が支給される(金額は毎年の変更にて定める)。ただし本コースの奨励金を受給する場合、原則として他の奨学金(下に挙げたものなどを含む)とは重複して受給することはできないので留意すること。ただし、本コースの奨励金を辞退することも可能であり、その場合は他の奨学金は受給できる。

日本学術振興会の特別研究員(DC)、日本学生支援機構奨学金、外国人留学生に対する日本政府(文部科学省)奨学金または日本学生支援機構学生奨励費、外国人留学生に対する母国奨学金、東京大学の博士課程研究遂行協力制度。

詳細については、本プログラムのホームページを参照のこと。

### ・ 修了要件

本コースを修了するためには、以下が必要である。

- ・「グローバル・クリエイティブリーダー実践英語特別演習」の履修
- ・グローバル デザイン ワークショップの企画・参加
- ・社会イノベーション プロジェクトの実践

- ・ 3 年次からの編入者については、本プログラム修士課程に相当する学習・経験につき、編入時までに学習・経験しているか、編入後に学習・経験することが必要である。ただし、学習または経験が不足する場合、それを博士課程期間中に補充することができる。詳細については、本プログラムのホームページを参照のこと。

## 8 . 本プログラムに関する問い合わせ

GCL プログラム事務局：

〒113-8656 東京都文京区本郷7 - 3 - 1 工学部8号館621号室

電話：03-5841-8746

E-mail: [gcl\\_admin@gcl.i.u-tokyo.ac.jp](mailto:gcl_admin@gcl.i.u-tokyo.ac.jp)

GCL プログラム ホームページ：

<http://www.gcl.i.u-tokyo.ac.jp>